

六角堂脇の坂

都内から移築の堂

こしおかれいこ
越岡禮子

郷土史家
アシラネ利用会員

国道 356 号線沿いにある我孫子の古刹、興陽寺⁽¹⁾の山門前の道を南に進むと間もなく旧飯田医院前から手賀沼沿いの旧道へ下る長い緩い坂がある。この坂は近年「六角堂脇の坂」と呼んでいる。数年前、市民団体の「我孫子の景観を守る会」が市内の坂道八景を選定し、その一つとして六角堂脇の坂とされた。由来は坂の途中にある寺田家の邸内に、趣ある六角堂が建てられていることからだ。この六角堂はかつて都内の高級料亭にあった建物で、昭和 39 年の東京オリンピックのとき、道路拡張に当り、ここに移築されたという。地元の古老によると、坂の下にある旧家の津川家がこの坂の両脇に敷地と農地を所有していたことからその屋号を「治右衛門」にちなんで「ジエムさんの脇の坂」と呼んでいたという。

昭和 2 年の地図には、この道沿いにほとんど人家はない。興陽寺、嘉納後楽農園⁽²⁾、竹澤住宅があり、沼沿いの旧道沿いには一並びに数軒の農家があった。興味深いのは街道からこの旧道に入る角に「アビコカフェー」と書かれている。街道に沿ってこの辺りには「うえきや」「香取屋」など八十八ヶ所宿があり、興陽寺には相馬霊場五十九番札所がある。

坂道の右手一帯の台地は明治末期に嘉納治五郎が購入した 2 万坪の土地が大正期に嘉納後楽園農園となり、昭和 13 年嘉納没後にその土地は住宅地となった。

この坂の左手の台地は昭和 42 年まで柏木と呼ばれ、手賀沼を眼下に望める景勝の地であった。現在は坂の右手と同じく白山という町名⁽³⁾になっている。嘉納の娘婿で社会学者の綿貫哲雄、撮影所をこの台地に設立した岡田嘉子が住み近年まで個性ある女優鈴木光枝と娘の佐々木愛もいた。建物は建てなかったが言語学者の上田万年⁽⁴⁾が購入した別荘地を相続したのが上田の次女で文化勲章受章者の作家、円地文子⁽⁵⁾であ

る。円地は小学校六年生のとき、家族と初めて晩春の手賀沼を訪れ、その美しい景色に感動して、この情景を作品の中に記している。しかし父が亡くなり更地のままの土地を地元の農家に耕作地として貸していたが、戦後直後の農地解放令により失う。土地への愛着が薄かったと回想したのが私小説「土地のゆくえ」である。

坂を下る辺りに近年まで寺山修司⁽⁶⁾の元妻で女優の九条映子⁽⁷⁾の実家があった。寺山は随筆「映子をみつめる」の中で映子には美しい沼のある故郷があると手賀沼を称賛している。実母と不仲であったと伝えられる寺山が我孫子には好印象を持ち、しばしば映子の実家を訪ねていた。



1. 興陽寺 曹洞宗 本尊薬師如来、天正 8 年開山 相馬霊場五十九番札所。
2. 嘉納後楽園 当初学園構想を持って 2 万坪を明治 44 年購入。後に農園にした。野菜にラベルを初めて貼る。
3. 大衆キネマ撮影所 昭和 5 年から約 2 年間、岡田嘉子が開設。トーキー映画を製作。
4. 上田万年 (1867~1937) 東大文学部長を務め、教子に新村出や金田一京助らがいる。
5. 円地文子 (1905~1986) 文化勲章受章作家「女坂」「なまみこ物語」等
6. 寺山修司 (1935~1983) 歌人、劇作家、「天井桟敷」を主宰
7. 九条映子 (1935~2014) 女優、演劇プロデューサー

